

2020年3月の市場混乱期における
証拠金の慣行についてのコメントを募集

- ・グローバルな基準設定者は、証拠金の慣行と潜在的な今後の政策作業に関する市中協議文書についてコメントを募集する。
- ・本レポートでは、2020年3月・4月におけるマージンコールの状況、それに対する市場参加者の準備態勢の程度について、データに基づく分析を行っている。
- ・2020年3月には、金融システム全体でマージンコールが大幅かつ急速に増加した。清算集中取引における当初証拠金が全体的に増加したのに対し、非清算集中取引に係る当初証拠金は比較的安定的に推移した。

バーゼル銀行監督委員会(BCBS)、BIS 決済・市場インフラ委員会(GPMI)、および証券監督者国際機構(IOSCO)は、本日、共同市中協議文書「2020年3月の市場混乱期における証拠金の慣行」について、コメントの募集を開始した。

本報告書は、金融安定理事会(FSB)によるノンバンク金融仲介セクターの強靭性を高めるための作業プログラムの一部であり、2020年3月・4月のマージンコールの状況、様々な法域や市場に於ける証拠金の慣行に関する透明性・予測可能性・ボラティリティのほか、市場参加者の流動性の準備態勢を分析している。

中央清算機関(CCPs)、清算会員、ブローカーディーラー、顧客(仲介業者を通じてこれらの市場に参加している事業体)、規制当局へのサーベイ、およびその他のデータ分析に基づいて、報告書は以下のことを明らかにしている。

- ・2020年3月における清算集中取引と非清算集中取引の変動証拠金徴求額はともに大きく、同年2月よりも著しく高かった。CCPの変動証拠金徴求額の最大は、2020年3月9日に発生した1,400億ドルであった。
- ・清算集中取引に対する当初証拠金徴求額は、2020年3月中に約3,000億ドル増加しており、異なる資産クラス間および同一資産クラス内でも顕著な差異があった。
- ・非清算集中取引に対する当初証拠金徴求額は、ストレス期間中でも比較的安定していた。

この分析を踏まえ、市中協議文書では、更なる政策検討作業のための6つの潜在的分野を特定している。

- ・ 清算集中市場における透明性の向上
- ・ 市場参加者の流動性に関する準備態勢および流動性に関する開示の強化
- ・ 規制上の報告におけるデータギャップの特定
- ・ 清算集中および非清算集中市場における変動証拠金プロセスの合理化
- ・ CCPのリソースや広範な金融システムへの影響やインプリケーションに焦点を当てつつ、市場ストレスに対する清算集中取引に係る当初証拠金モデルの反応性を評価すること。
- ・ 非清算集中取引に係る当初証拠金モデルの市場ストレスに対する反応性を評価すること。

(以下略)

(以上)